



溜まり染み渡るガラス

ガラスの、特に建築以上の規模で使われる際の、緊張感をはらみどこか窮屈な印象はガラスが内と外を分かち以外の場所を獲得していないからだと感じた。

しなやかさや強さを、様々な状態を受け入れ、柔軟に対応してゆくことだとすれば、石と砂から生まれたガラスも本来は、水のように様々な状態で存在し、ただ美しい瞬間を許されてもよい。

道の、劣化してへこんだところやクラックの入った、水たまりのできるところにガラスを流す。雨に馴染み、景色を映し、光を反射して街を彩る。

景色を介して、ガラスが建築と都市をつなぐ。

